



平成27年3月期 第2四半期決算短信〔米国基準〕(連結)

平成26年10月31日

上場会社名 株式会社ワコールホールディングス
 コード番号 3591 URL <http://www.wacoalholdings.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部長
 四半期報告書提出予定日 平成26年11月12日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(氏名) 塚本 能交
 (氏名) 宮城 晃

TEL 075-682-1010

上場取引所 東

(百万円未満四捨五入)

1. 平成27年3月期第2四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		税引前四半期純利益		当社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	96,190	△2.4	8,395	△12.3	10,123	0.5	6,530	1.5
26年3月期第2四半期	98,518	8.4	9,576	12.4	10,070	19.1	6,435	24.8

(注)四半期包括利益 27年3月期第2四半期 12,653百万円 (△9.8%) 26年3月期第2四半期 14,027百万円 (632.5%)

	1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	46.37	46.25
26年3月期第2四半期	45.69	45.60

(注)5ページ 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (3)会計方針の変更 に記載の通り、平成26年3月期第2四半期については、遡及的に調整しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	資本合計(純資産)	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第2四半期	282,936	215,382	212,951	75.3	1,512.03
26年3月期	271,988	207,536	205,106	75.4	1,456.32

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	—	—	33.00	33.00
27年3月期	—	—	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	30.00	30.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		税引前当期純利益		当社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当社株主に帰属する当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	196,000	1.1	13,500	△2.6	15,400	2.4	10,500	3.9	74.55

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 有
(注)詳細は、5ページ 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (3)会計方針の変更 をご覧下さい。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期2Q	143,378,085 株	26年3月期	143,378,085 株
② 期末自己株式数	27年3月期2Q	2,539,862 株	26年3月期	2,539,371 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期2Q	140,838,532 株	26年3月期2Q	140,843,441 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、様々なリスクや不確実性、その他の要因により、本資料の予想と大きく異なる結果となる可能性があります。これらのリスクや不確実性、その他の要因は以下のものを含みますが、これらに限られるものではありません。

- ・経済環境の悪化により国内市場及び海外市場の景気が低迷し当社の業績が悪化するリスク
- ・国内の百貨店、量販店及びその他一般小売店の業績不振や営業政策の変更によって当社が影響を受けるリスク
- ・消費者の嗜好を的確に予測しそれに応える能力及び高品質な商品を提供する能力が期待される成果を生み出さないリスク
- ・激しい市場競争により当社の販売シェアや利益率が低下するリスク
- ・直営店事業ネットワークの拡大が売上や利益の拡大につながらないリスク
- ・WEB販売の強化による売上増加が達成できないリスク
- ・販売不振による在庫の増加が業績を悪化させるリスク
- ・コスト削減が成功せず利益が減少するリスク
- ・有能な人材確保ができず人材が不足するリスク
- ・季節の天候不順の影響により業績が悪化するリスク
- ・海外事業に関連して増加するリスク
- ・買収及びその他第三者との戦略的提携等の成否に関するリスク
- ・新市場の開拓における投資の回収に関するリスク
- ・知的財産権に関連するリスク
- ・情報システムに関するリスク
- ・個人情報保護や当社の機密保持に関するリスク
- ・内部統制に関連するリスク
- ・有価証券に関連するリスク
- ・自然災害、疫病の発生等に関するリスク

これらの詳細については、当社の有価証券報告書をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 連結経営成績に関する説明	P. 2
(2) 連結財政状態に関する説明	P. 4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	P. 5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	P. 5
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用	P. 5
(3) 会計方針の変更	P. 5
3. 四半期連結財務諸表	P. 6
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 6
(2) 四半期連結損益計算書	P. 8
(3) 四半期連結包括損益計算書	P. 8
(4) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 9
(5) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 10
(継続企業の前提に関する注記)	P. 10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 10
(セグメント情報等)	P. 10
(重要な後発事象)	P. 11
(6) 販売の状況	P. 12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

①当第2四半期の業績

当社グループでは3カ年中期経営計画（2013～2015年度）の2年目を迎え、主力事業会社である株式会社ワコールを中心に、多様化する国内レディスインナー市場への対応による売上シェアの拡大と、レディスインナー事業以外の事業体制整備、また海外事業の積極的な展開による成長力・収益力強化に取り組みました。

これらの結果、当社グループの当第2四半期の連結業績は、円安によって海外事業の売上が嵩上げされたものの、国内事業において消費税増税後の需要の低迷が続き、全体の売上高は前年同期を下回りました。利益面では、売上高が減少したことや、国内事業の売上利益率が低下したことなどにより営業利益は前年同期を下回りました。

●売上高	961億90百万円	（前年同期比	2.4%減）
●営業利益	83億95百万円	（前年同期比	12.3%減）
●税引前四半期純利益	101億23百万円	（前年同期比	0.5%増）
●当社株主に帰属する四半期純利益	65億30百万円	（前年同期比	1.5%増）

②オペレーティング・セグメントの営業概況

a. ワコール事業（国内）

国内市場においては、消費税増税後の需要の低迷が続き、物価上昇を背景に実質可処分所得が伸び悩む中、個人消費が低迷し、厳しい商況となりました。

株式会社ワコールのワコールブランド事業本部につきましては、新設したチャネル専用ブランドやシルバー向け商品、ジュニア向け新ブランドなど一部の商品は好調に推移したものの、中高年向けブランドや季節性の高い商品、ガードルが低調に推移し、ワコールブランド事業本部全体の売上は前年同期を下回りました。

ウイングブランド事業本部につきましては、TVCF投下時期の変更なども影響し、厳しい商況となりました。メンズインナーのシニア向け機能性商品や、ティーン向けブランドなど、堅調に推移した商品群もありましたが、夏物商品が落ち込み、ウイングブランド事業本部全体の売上は前年同期を下回りました。

ショッピングモールを中心に直営店を展開している小売事業本部につきましては、消費税増税後の落ち込みは小さく、直営店「AMPHI（アンフィ）」において新業態店舗や粗利率の高い商品グループが売上を牽引しました。また、アウトレットモールで展開する「ワコールファクトリーストア」も商品構成の見直しやインバウンド対応が功を奏し、7～9月期は好調に推移しました。これらの結果、小売事業本部全体の売上は前年同期を上回りました。

ウエルネス事業部につきましては、期間を通じて、スポーツコンディショニングウェア「CW-X（シーダブリューエックス）」をはじめ、ビジネスパンプスなど主力商品の店頭販売が低調に推移し、全体の売上は前年同期を下回りました。

通信販売事業部につきましては、インターネット販売は、新商品の強化により7～9月期売上は前年並みに推移したものの、期初のサイト閉鎖の影響もあり期間合計では前年同期を下回りました。カタログ販売についても、夏・秋号ともに苦戦し、全体の売上は前年同期を大きく下回りました。

このように、4～6月期の消費税増税後の落ち込みを7～9月期ではカバーしきれず、主力事業会社である株式会社ワコールの売上が前年を下回ったことにより、ワコール事業（国内）セグメント全体の売上高は前年同期を下回りました。利益面につきましても、株式会社ワコールにおいて、販管費の抑制に努めたものの、売上高の減少とともに、海外生産における加工賃上昇等による売上利益率の低下が影響し、営業利益は前年同期を大きく下回りました。

●売上高	569億51百万円	（前年同期比	5.3%減）
●営業利益	51億66百万円	（前年同期比	17.6%減）

b. ワコール事業 (海外)

米国ワコールは、低調な小売環境の中、主力販売チャネルである百貨店においては、シンプルなデザインが特色のブランド『b. tempt 'd (ビー・テンプテッド)』が苦戦しましたが、春に発売したTシャツブラが好調に推移し、百貨店チャネルは前年並みでした。また、インターネット販売、周辺国での販売は好調に推移し、全体の売上は現地通貨ベースで前年同期を上回りました。利益面では、売上の増加と円安により営業利益は前年同期を上回りました。

中国ワコールは、拡大する中間層に向けたブランド『LA ROSABELLE (ラ・ロッサベル)』の店舗数増加による売上増や、インターネット販売、アウトレットモールの店頭売上などが堅調に推移しましたが、節約令の影響で富裕層の消費が減退したことから、百貨店チャネルにおける購買客数が減少、特に高価格帯ブランドが影響を受け、売上は、現地通貨ベースでは前年同期を下回りましたが、円安により邦貨換算ベースでは前年同期を上回りました。一方、利益面では、現地材料調達比率を高めたことによる原価低減などの効果で売上利益が拡大しました。また、不採算店舗の撤退による人員減なども寄与したため、営業利益は前年同期を大きく上回りました。

ワコールイヴィデンは、イギリスにおいてはワコールブランド商品の販路拡大に伴い、前年並みの売上を確保しましたが、ウクライナや中東情勢の不安などにより、その他欧州地域は総じて売上が苦戦しました。特にフランスでは、水着は計画通りに推移したものの、ファッション商品群が不振となりました。また、米国においては、ドル安による影響と低調な小売環境や一部得意先のMD変更などにより百貨店チャネルが苦戦しました。これらによって、売上は、現地通貨ベースでは前年同期を下回ったものの、大幅な円安のため邦貨換算ベースでは、前年同期を大きく上回りました。利益面では、売上高の減少に伴う売上利益の減少と、欧州事業体制の変更に係る費用を計上したことなどから、営業利益が前年同期を大きく下回りました。

これらの結果、ワコール事業 (海外) セグメント全体の売上高、営業利益ともに前年同期を上回りました。

なお、2014年3月に、米国ワコールに対して米連邦取引委員会 (FTC) から、一部商品の広告表現が適切な裏付けを欠いているとして、連邦取引委員会法に基づく法執行手続きを取る意向であるとの通達がありました。9月29日に、米国ワコールとFTC担当官は、米国ワコールが一部広告表現を制限し、当該商品の購入者に対して1,300千米ドルの返金を行う旨を公表することで暫定的な和解に達しています。

●売上高	244億70百万円	(前年同期比	8.0%増)
●営業利益	33億10百万円	(前年同期比	8.8%増)

c. ピーチ・ジョン事業

主力の通信販売は、ウェブサイトでは一定の集客を確保したものの購買率が低迷し、売上は前年同期を大きく下回りました。国内直営店は、首都圏既存店の一部は売上を落としましたが、若年層をターゲットとした新業態店舗の出店などで店舗数が増えたことにより前年同期を上回りました。海外につきましては、香港新店舗や客数の増加などにより好調に推移しましたが、中国では直営店が苦戦するとともに自社ECサイトも伸び悩み、前年同期を下回りました。これらの結果、ピーチ・ジョン事業セグメント全体の売上高は前年同期を下回りました。利益面では、売上の減少とともに円安の影響を受け原価率が上昇し営業損失となりました。

●売上高	58億43百万円	(前年同期比	5.4%減)
●営業損失	1億56百万円	(前年同期は営業利益	1億12百万円)

d. その他

株式会社ルシアンにつきましては、主力のインナー事業は、大手得意先への納品が減少したものの前年並みに推移しました。また、アパレル事業をはじめその他事業部で売上が落ち込んだことにより、ルシアン全体の売上は前年同期を下回りました。利益面については、売上の減少により営業損失となりました。

マネキンの製造販売やレンタル、商業施設の設計や施工を行う株式会社七彩につきましては、物販事業および工事業の売上が、消費低迷を見越した発注抑制により、前年同期を大きく下回りました。利益面については売上減少に伴い前年同期を下回りました。

これらの結果、その他セグメント全体の売上高、営業利益ともに前年同期を下回りました。

●売上高	89億26百万円	(前年同期比	6.7%減)
●営業利益	75百万円	(前年同期比	51.0%減)

(2) 連結財政状態に関する説明

①資産、負債、株主資本等の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、現金及び現金同等物や時価評価による投資の増加などにより、前連結会計年度末に比して109億48百万円増加し、2,829億36百万円となりました。

負債の部は、繰延税金負債のほか、その他の流動負債が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比して31億2百万円増加し、675億54百万円となりました。

株主資本は、為替換算調整勘定や未実現有価証券評価損益の増加などにより、前連結会計年度末に比して78億45百万円増加し、2,129億51百万円となりました。

以上の結果により、当第2四半期連結会計期間末における株主資本比率は、前連結会計年度末に比して0.1%減少し、75.3%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比して30億72百万円増加し、337億30百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、四半期純利益67億11百万円に減価償却費や繰延税金などによる調整を加えた金額に対して、資産及び負債の増減などによる調整を行った結果、101億1百万円の収入(前年同期に比し52億41百万円の収入増)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、絵画の売却収入があったものの、有形固定資産や投資の取得などにより、11億61百万円の支出(前年同期は39億91百万円の収入)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の返済や配当金の支払などにより、64億27百万円の支出(前年同期に比し21億65百万円の支出増)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想数値につきましては、平成26年5月13日発表時から変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更

（子会社の決算期変更）

前連結会計年度より、一部の連結子会社について、従来の決算日から当社の決算日である3月31日に変更しております。これに伴い、平成26年3月期第2四半期の四半期連結損益計算書、四半期連結包括損益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書、セグメント情報、販売の状況を遡及的に調整しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

科 目	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)	増減金額
(資産の部)	百万円	百万円	百万円
I. 流動資産			
現金及び現金同等物	30,658	33,730	3,072
定期預金	2,168	2,459	291
有価証券	3,523	3,856	333
売掛債権	26,269	25,847	△ 422
返品調整引当金及び貸倒引当金	△ 2,321	△ 2,690	△ 369
たな卸資産	40,211	41,806	1,595
繰延税金資産	4,848	4,750	△ 98
その他の流動資産	4,132	4,103	△ 29
流動資産合計	109,488	113,861	4,373
II. 有形固定資産			
土地	21,994	21,972	△ 22
建物及び構築物	63,024	63,248	224
機械装置及び工具器具備品等	15,446	16,145	699
建設仮勘定	147	232	85
	100,611	101,597	986
減価償却累計額	△ 51,633	△ 52,711	△ 1,078
有形固定資産合計	48,978	48,886	△ 92
III. その他の資産			
関連会社投資	18,894	19,746	852
投資	45,951	50,099	4,148
のれん	22,723	23,568	845
その他の無形固定資産	13,688	13,800	112
繰延税金資産	1,008	1,025	17
その他	11,258	11,951	693
その他の資産合計	113,522	120,189	6,667
資産合計	271,988	282,936	10,948

科 目	前連結会計年度	当第2四半期連結会計期間	増減金額
	(平成26年3月31日)	(平成26年9月30日)	
(負債の部)	百万円	百万円	百万円
I. 流動負債			
短期借入金	16,630	15,723	△ 907
買掛債務			
支払手形	1,064	1,034	△ 30
買掛金	10,657	12,020	1,363
未払金	5,764	4,322	△ 1,442
	17,485	17,376	△ 109
未払給料及び賞与	7,085	6,761	△ 324
未払税金	1,224	2,824	1,600
その他の流動負債	4,184	5,802	1,618
流動負債合計	46,608	48,486	1,878
II. 固定負債			
退職給付に係る負債	1,795	1,746	△ 49
繰延税金負債	13,611	15,351	1,740
その他の固定負債	2,438	1,971	△ 467
固定負債合計	17,844	19,068	1,224
負債合計	64,452	67,554	3,102
(資本の部)			
I. 資本金	13,260	13,260	—
II. 資本剰余金	29,587	29,618	31
III. 利益剰余金	151,468	153,350	1,882
IV. その他の包括損益累計額			
為替換算調整勘定	2,310	5,630	3,320
未実現有価証券評価損益	11,606	14,307	2,701
年金債務調整勘定	△ 227	△ 316	△ 89
V. 自己株式	△ 2,898	△ 2,898	△ 0
株主資本合計	205,106	212,951	7,845
VI. 非支配持分	2,430	2,431	1
資本合計	207,536	215,382	7,846
負債及び資本合計	271,988	282,936	10,948

(2) 四半期連結損益計算書

科 目	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)		増減金額 百万円
	百万円	%	百万円	%	
I. 売上高	98,518	100.0	96,190	100.0	△ 2,328
II. 営業費用					
売上原価	45,448	46.1	44,359	46.1	△ 1,089
販売費及び一般管理費	43,494	44.2	43,436	45.2	△ 58
営業費用合計	88,942	90.3	87,795	91.3	△ 1,147
営業利益	9,576	9.7	8,395	8.7	△ 1,181
III. その他の収益・費用(△)					
受取利息	36		57		21
支払利息	△ 64		△ 51		13
受取配当金	456		512		56
有価証券・投資有価証券売却 及び交換損益(純額)	13		1		△ 12
有価証券・投資有価証券 評価損益(純額)	0		△ 0		△ 0
絵画売却益	—		1,059		1,059
その他の損益(純額)	53		150		97
その他の収益・費用合計	494	0.5	1,728	1.8	1,234
税引前四半期純利益	10,070	10.2	10,123	10.5	53
法人税等	3,971	4.0	3,826	4.0	△ 145
持分法による投資損益調整前 四半期純利益	6,099	6.2	6,297	6.5	198
持分法による投資損益	503	0.5	414	0.5	△ 89
四半期純利益	6,602	6.7	6,711	7.0	109
非支配持分帰属損益	△ 167	△ 0.2	△ 181	△ 0.2	△ 14
当社株主に帰属する四半期純利益	6,435	6.5	6,530	6.8	95

(3) 四半期連結包括損益計算書

科 目	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)		増減金額 百万円
	百万円		百万円		
I. 四半期純利益	6,602		6,711		109
II. その他の包括損益 — 税効果調整後					
為替換算調整勘定	4,974		3,324		△ 1,650
未実現有価証券評価損益	2,337		2,711		374
年金債務調整勘定	114		△ 93		△ 207
その他の包括損益 合計	7,425		5,942		△ 1,483
四半期包括損益	14,027		12,653		△ 1,374
非支配持分帰属四半期包括損益	△ 254		△ 191		63
当社株主に帰属する四半期包括損益	13,773		12,462		△ 1,311

(4) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間
	(自 平成25年 4月 1日 至 平成25年 9月30日)	(自 平成26年 4月 1日 至 平成26年 9月30日)
	百万円	百万円
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー		
1. 四半期純利益	6,602	6,711
2. 営業活動によるキャッシュ・フローへの調整		
(1)減価償却費	2,488	2,595
(2)返品調整引当金及び貸倒引当金	326	314
(3)繰延税金	△ 292	276
(4)固定資産除売却損益	7	△ 7
(5)絵画売却益	—	△ 1,059
(6)有価証券・投資有価証券売却及び交換損益	△ 13	△ 1
(7)有価証券・投資有価証券評価損益	△ 0	0
(8)持分法による投資損益(受取配当金控除後)	138	174
(9)資産及び負債の増減		
売掛債権の減少(△増加)	△ 660	695
たな卸資産の増加	△ 1,007	△ 1,181
その他の流動資産等の減少(△増加)	249	△ 395
買掛債務の減少	△ 2,013	△ 178
退職給付に係る負債の減少	△ 427	△ 788
その他の負債等の増加(△減少)	△ 695	2,747
(10)その他	157	198
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,860	10,101
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー		
1. 定期預金の増加額	△ 540	△ 1,873
2. 定期預金の減少額	1,577	1,656
3. 有価証券の売却及び償還収入	1,251	107
4. 有価証券の取得	△ 113	—
5. 絵画の売却収入	—	1,275
6. 有形固定資産の売却収入	32	184
7. 有形固定資産の取得	△ 1,263	△ 1,442
8. 無形固定資産の取得	△ 504	△ 641
9. 投資の売却収入	3,823	14
10. 投資の取得	△ 253	△ 457
11. 子会社株式の追加取得	—	△ 1
12. その他	△ 19	17
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,991	△ 1,161
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー		
1. 短期借入金の純増減額	330	△ 1,085
2. 長期債務の返済	△ 501	△ 505
3. 自己株式の取得	△ 2	△ 0
4. 当社株主への配当金支払額	△ 3,944	△ 4,648
5. 非支配持分への配当金支払額	△ 145	△ 189
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,262	△ 6,427
IV. 為替変動による現金及び現金同等物への影響額	368	559
V. 現金及び現金同等物の増減額	4,957	3,072
VI. 現金及び現金同等物の期首残高	24,514	30,658
VII. 現金及び現金同等物の四半期末残高	29,471	33,730
補足情報		
現金支払額		
利息	67	53
法人税等	4,780	2,020
現金支出を伴わない投資活動		
固定資産の取得価額	210	478

(5) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

① オペレーティング・セグメント情報

前第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(単位:百万円)

	ワコール事業 (国内)	ワコール事業 (海外)	ピーチ・ジョン 事業	その他	計	消去又は 全社	連結
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	60,122	22,655	6,178	9,563	98,518	—	98,518
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,077	4,207	217	2,635	8,136	△ 8,136	—
計	61,199	26,862	6,395	12,198	106,654	△ 8,136	98,518
営業利益	6,270	3,041	112	153	9,576	—	9,576

当第2四半期連結累計期間(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

(単位:百万円)

	ワコール事業 (国内)	ワコール事業 (海外)	ピーチ・ジョン 事業	その他	計	消去又は 全社	連結
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	56,951	24,470	5,843	8,926	96,190	—	96,190
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	979	4,244	316	2,490	8,029	△ 8,029	—
計	57,930	28,714	6,159	11,416	104,219	△ 8,029	96,190
営業利益(△損失)	5,166	3,310	△ 156	75	8,395	—	8,395

(注) 各事業の主な製品

- ワコール事業(国内) … インナーウェア(ファンデーション・ランジェリー・ナイトウェア・リトルインナー)、アウターウェア、スポーツウェア、レッグニット他
- ワコール事業(海外) … インナーウェア(ファンデーション・ランジェリー・ナイトウェア・リトルインナー)、アウターウェア、スポーツウェア、レッグニット他
- ピーチ・ジョン事業 … インナーウェア(ファンデーション・ランジェリー・ナイトウェア・リトルインナー)、アウターウェア、その他繊維関連商品他
- その他 … インナーウェア(ファンデーション・ランジェリー・ナイトウェア・リトルインナー)、アウターウェア、その他繊維関連商品、マクソン人形、店舗設計・施工他

② 地域別情報

前第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(単位:百万円)

	日本	アジア オセアニア	欧米	連結
外部顧客に対する売上高	75,594	7,563	15,361	98,518
構成比	76.7%	7.7%	15.6%	100.0%
営業利益	6,513	595	2,468	9,576

当第2四半期連結累計期間(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

(単位:百万円)

	日本	アジア オセアニア	欧米	連結
外部顧客に対する売上高	71,537	8,015	16,638	96,190
構成比	74.4%	8.3%	17.3%	100.0%
営業利益	5,055	1,039	2,301	8,395

(注) 1. 国又は地域の区分の方法は地理的近接度によっております。

2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

アジア・オセアニア: 東アジア、東南アジア及び西アジア諸国、オーストラリア

欧米: 北米及びヨーロッパ諸国

3. 売上高は連結会社を所在地別に分類したものであります。

(重要な後発事象)

2014年10月20日に京都府京都市南区に新設する事務所建物新築工事に関連し、63億95百万円の工事監理契約及び工事請負契約を締結しました。

(6) 販売の状況

製品の種類		前第2四半期 自平成25年4月1日 至平成25年9月30日		当第2四半期 自平成26年4月1日 至平成26年9月30日		増減	
		金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
		百万円	%	百万円	%	百万円	%
インナーウェア	ファンデーション ・ランジェリー	74,529	75.7	72,852	75.7	△ 1,677	△ 2.3
	ナイトウェア	4,707	4.8	4,590	4.8	△ 117	△ 2.5
	リトルインナー	824	0.8	761	0.8	△ 63	△ 7.6
	計	80,060	81.3	78,203	81.3	△ 1,857	△ 2.3
アウターウェア ・スポーツウェア等		8,056	8.2	7,900	8.2	△ 156	△ 1.9
レッグニット		1,116	1.1	1,259	1.3	143	12.8
その他繊維製品 及び関連製品		4,147	4.2	4,038	4.2	△ 109	△ 2.6
その他		5,139	5.2	4,790	5.0	△ 349	△ 6.8
合 計		98,518	100.0	96,190	100.0	△ 2,328	△ 2.4